領　　域	専門分野(基礎看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術Ⅰ (Ⅰ.呼吸・循環を整える技術) (Ⅱ.処置に伴う看護技術)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講　　師 (所属・職位等・実務経験)	寺川孝枝（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師34年）		

＜科目目標＞

呼吸・循環を整える治療、処置の目的と方法を理解し、安全・安楽な治療・処置の援助技術を身につける。

＜内容＞

回	授業内容	授業方法
Ⅰ.呼吸・循環を整える技術（1～8回）		
【課題1】講義に入る前に、呼吸・循環の解剖生理（口腔・鼻腔・咽頭・気管・肺・心臓・血管）について学習しておく。		
1	1. 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法 1)呼吸を楽にする姿勢 2)呼吸法 2.血圧・血流を保持する姿勢 1)体位保持 2)末梢循環促進ケア	講義
2	3.酸素吸入療法を必要とする患者の看護 1)酸素吸入療法の目的と対応 (1)酸素吸入の適応 (2)酸素吸入の方法 2)酸素吸入療法の看護	講義
3	4.酸素吸入療法時の看護 1)酸素流量計、加湿器の構造 2)中央配管での酸素流量計の接続方法 3)鼻カニューレ、フェイスマスク、リザーバーマスクの物品と装着方法 4)酸素ボンベの取り扱い方、酸素の残量の見方(計算法) 5)酸素飽和度の測定方法と酸素飽和度の値が示す意味 5.人工呼吸器装着中の看護 6. 低圧持続吸引器装着中の看護	講義
4	7.酸素吸入療法時の看護 1)中央配管での酸素流量計の接続 2)酸素流量の調整 3)鼻カニューレ、フェイスマスクの装着方法 4)酸素ボンベの取り扱い方、酸素の残量の見方 酸素ボンベの交換（デモンストレーション）	演習
5	8. 吸入療法を必要とする患者の看護 1)吸入 (1)吸入の目的 (2)吸入の種類（ジェットネブライザー、超音波ネブライザー） (3)吸入の方法と留意事項	講義
回	授業内容	授業方法

6	9. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法 1)吸引の目的 2)吸引の種類（一時的吸引・気管内吸引） 3)吸引の方法と留意事項	講義
7	10. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法 (4)看護の実際 一時的吸引（鼻腔・口腔内の一時的吸引）気管内吸引	演習
8	11. 排痰法の適応と方法 (1)排痰ケア (2)体位ドレナージ ①体位ドレナージの目的　②体位ドレナージの方法	講義
Ⅱ.処置に伴う看護技術（9～15 回）		
【課題２】9 回目の講義の前までに以下の課題を行う。 腰椎（脊髄腔）・胸腔・腹腔・腸骨の解剖生理について学習しておく。		
9・10	12.処置に伴う看護 1)処置とは 2)処置時の看護師の役割 13.穿刺 1)穿刺の目的　検体検査(髄液、胸水、腹水、骨髄液) 2)穿刺の種類 (1)腰椎穿刺　(2)胸腔穿刺　(3)腹腔穿刺　(4)骨髄穿刺 3)穿刺の実際 (1)各種穿刺方法 (2)穿刺部位の解剖生理から考えられるリスク (3)穿刺時の看護師の役割	講義
11	14. 包帯法 1)包帯法の目的　2)包帯法の原則　3) 包帯の種類 4)包帯の巻き方　5)援助の実際　各種包帯の巻き方 三角巾を用いた上肢の固定方法 15.止血法 1)止血法の目的　2)止血法の種類　3)援助の実際	講義 演習
【課題３】皮膚の構造、皮膚のバリア機能について学習しておく。		
12	16. 創傷治癒の看護 1)創傷の種類 2)創傷治癒の過程（止血期、炎症期、増殖期、成熟期） 3)創および創周囲の洗浄、ドレッシング材の選択、ドレッシング材・医療用テープの貼り方、剝がし方	講義
13	16. 創傷治癒の看護 4)褥瘡処置 (1)褥瘡のリスクアセスメント・スケール (2)体圧分散マットレスの活用、シーツのかけ方 (3)褥瘡予防のためのポジショニング (4)ずれの排除 (5)褥瘡の評価（NPUAP 分類、DESIGN-R） 5)医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）	講義
回	授業内容	授業方法

14	16. 創傷治癒の看護 6) ドレーンの管理 (1) ドレナージの目的、ドレナージ中の対象の観察点 (2) ドレーンの管理（閉鎖式、解放）	講義
15	16. 創傷治癒の看護 創および創周囲の洗浄、ドレッシング材・医療用テープの貼り方、剝がし方	演習

授業の進め方

Ⅰ. 呼吸・循環を整える技術では、解剖学・生理学の知識を活かして、呼吸・循環を整える酸素吸入療法や吸入療法、吸引療法の目的・方法を講義にて学習する。校内実習では、モデル人形、シミュレーターを使用して、酸素吸入療法や一時的吸引（鼻腔・口腔内の一時的吸引、気管内吸引）の実際を学習する。酸素吸入療法では酸素吸入や酸素ボンベの取り扱いの実際について演習を行う。

Ⅱ. 処置に伴う看護技術では、既習の解剖学・生理学の知識を活用し、穿刺や包帯法などの処置について学習する。また、創傷処置については、創傷治癒過程や創傷治癒を促進させる創および創周囲の洗浄、ドレッシング材の選択、ドレッシング材・医療用テープの貼り方、剝がし方について学習する。

テキスト

1. 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
2. 看護がみえる vol.1　基礎看護技術　第1版（メディックメディア）
3. 看護がみえる vol.2　臨床看護技術　第1版（メディックメディア）

評価方法

1. 筆記試験

領　　域	専門分野(基礎看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術Ⅱ (Ⅰ.診察・検査・治療を安全かつ正確に行う技術) (Ⅱ.与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講　　師 (所属・職位等・実務経験)	① 大道真理(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師18年) ② 川﨑徹也(別府医療センター・主任臨床工学技士) ③ 野中智恵(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師18年) ④ 阿部綾香(別府医療センター・看護師11年) ⑤ 染矢　栞(別府医療センター・看護師6年) ⑥ 近廣彩乃(別府医療センター・看護師8年) ⑦ 大森智佳子(別府医療センター・看護師4年) ⑧ 永吉久美子(別府医療センター・看護師29年) ⑨ 岡村由佳(別府医療センター・看護師14年)		

＜科目目標＞

診察や検査、治療の目的を理解し、安全・安楽な診察・検査・治療の援助技術を身につける。

＜内容＞

回	授業内容	授業方法	担当講師
Ⅰ.診察・検査・治療を安全かつ正確に行う技術（1～6回）			
1	1.診察・検査援助技術 1)診察と看護　2)診察の目的と方法 3)診察を受ける人の心理　4)検査時の看護師の役割 5)診察時の援助方法と留意点	講義	①
2	2.生体機能のモニタリング 1)検査と看護 (1)検査の意義と目的 (2)検査時の看護師の役割 (3)検査時の援助方法と留意点 ①生体検査(X線、MRⅠ、CT、血管造影、心電図、内視鏡、超音波検査、脳波検査、核医学検査、呼吸機能検査、経皮的動脈血酸素飽和度〈SPO_2〉など) ②検体(尿、便、痰、血液、髄液)の採取方法と取り扱い	講義	①
3	3.モニタリング機器の取り扱い (1)ME機器とは ①測定用ME機器（心電図モニター） ②治療用ME機器(人工呼吸器・低圧持続吸引器・輸液ポンプ) (2)ME機器を使用するための基礎知識 (3)ME機器の取扱い上の留意事項		②
【課題1】血液検査の実際に入る前までに以下の課題を行うこと 「安全を守る技術・感染予防の技術で学習した内容の復習」 1.感染防止の技術：感染予防の原則、スタンダードプリコーション 2.感染予防と種類と方法：感染経路別予防策、消毒法と滅菌法 3.感染予防の実際：無菌操作、個人防護用具の着脱、感染廃棄物の取り扱い 【課題2】採血技術演習に入る前までに以下の課題を行うこと 1.上腕にある静脈及び神経の走行を図に書き理解しておく。			
4	4. 血液検査 (1)静脈血採血法 ①採血に伴う合併症 (皮下血腫、血管迷走神経反射、神経損傷、アレルギー、針刺し事故) ②静脈血採血法の種類と必要物品　③検査値の変動因子	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
5	5. 血液検査の実際 1) 注射器および注射針の種類と選択、注射器の取り扱い、注射器を用いた採血方法	講義	①
6	2) 真空管採血(デモンストレーション、演習) 3) シリンジでの採血方法(デモンストレーション)	演習	①④⑤⑥
Ⅱ. 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術（７～15 回）			
【課題３】講義開始前に、前腕～上腕部、臀部、大腿部の筋肉、神経、血管の解剖図と名称について調べておく。			
7	1. 治療に伴う看護 1) 薬物療法に伴う看護 (1) 薬の目的 (2) 与薬における看護師の役割 ①誤薬防止　②治療効果の確認　③有害作用の早期発見と予防 (3) 与薬時に共通するインシデント事例 2) 処方から投与まで (1) 処方（処方箋） ①処方箋とは　②処方箋の記載内容　③処方箋の種類：内服、注射、麻薬など　④処方箋の見方 (2) 調剤 (3) 対象への説明 (4) 与薬に関する確認行動 ①６Ｒの確認　②単位、滴下量　③計算：希釈、濃度、正確な投与量、注射薬品の一部使用（バイアル・アンプル）、輸液セット (5) 投与 (6) 投与前、投与中、投与後の状態観察	講義	③
8	2. 経口的与薬法 1) 経口的与薬法の利点と欠点 2) 経口与薬の方法 (1) 服用時間（食前、食後、食間、屯用） (2) 経口与薬時の体位（座位、半座位） (3) 薬剤と飲食物の相互作用 3. その他の与薬 1) 経皮・直腸・膣・噴霧・塗布・塗擦・点眼・ 2) それぞれの与薬法の利点・欠点	講義	③
【課題４】9 回目の講義前に DVD「実践！看護技術シリーズ　4. 注射」を視聴しておく			
9・10	4. 注射法 1) 注射の意味　2) 注射の種類　3) 注射の目的・適応 4) 注射の利点・欠点　5) 注射の実施 6) 注射に必要な物品の構造と取り扱い　7) 筋肉内注射の方法 8) 皮下注射の方法　9) 薬液の準備 10) 静脈内注射・点滴静脈内注射の看護 (1) 目的　(2) 患者に起こりやすい問題と看護 11) 静脈内注射・点滴静脈内注射の方法 (1) 適切な静脈の選択　(2) 刺入方法　(3) 固定方法 12) 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い (1) 目的・適応　(2) 輸液ポンプ、シリンジポンプの選択 (3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い方 (4) アラームの種類・原因・対応　(5) 起こりやすい事故	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
11・12	5.与薬の実際 1)点滴静脈内注射 (1) 輸液ラインの満たし方、滴下の調整、三方活栓の取り扱い 2) 輸液ポンプの取り扱い (1) 輸液ラインの装着、流量・予定量の設定、アラーム対応 3) シリンジポンプの取り扱い (1) シリンジの準備、シリンジポンプへの接続、流量の設定 アラーム対応	演習	③
13・14	5.与薬の実際 4)筋肉内注射（中殿筋・三角筋） (1) 6Rの確認、注射器と注射針の接続、アンプルカット、 薬液の吸い上げ、気泡の除去 (2) 穿刺部位の決定（中殿筋・三角筋） (3) 穿刺、薬液の注入、抜針後の注射器の取り扱い	演習	③⑦⑧⑨
【課題５】15回目の講義前にDVD「実践！看護技術シリーズ 7. 輸血」を視聴しておく			
15	6. 輸血療法と看護 1)輸血の目的と指針 2)輸血の指示確認、払い出し、準備と確認 3)輸血の副作用（有害事象）と対処 4)輸血時の介助の方法 5)輸血を受ける患者の心理と援助 6)輸血の管理とリスク	講義	③

授業の進め方

【Ⅰ.診察・検査・治療を安全かつ正確に行う看護】

患者が安全・安楽に診察を受けるために必要な援助技術を学習する。診療時援助技術に関する法律での規制等に関しては、関係法規及び臨床看護総論にておさえる。尿検査は春季健康診断を通して実践を行う。血液検査は、モデル人形、シミュレーターを使用しての演習を行う。

【Ⅱ.与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術】

解剖生理学、薬理学の知識を活かして学習を進める。薬液の吸収排泄の機序については薬理学で教授し、医薬品の管理については看護薬理にて教授する。看護薬理で学んだ知識を想起させ、それぞれの与薬に関する具体的方法と留意事項を教授する。処方から投与まですべての与薬に共通する内容を学習した後、各々の与薬法について具体的に学習する。

注射に関しては、提示された解剖図の予習を行い授業に臨む。校内実習では、モデル人形、シミュレーターを使用して、与薬の実際を学習する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ(医学書院):①②③
2. 看護がみえるvol.1 臨床看護技術 第1版(メディックメディア):③
3. 看護がみえるvol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア):①②③
4. 系統看護学講座 専門基礎 薬理学(医学書院):③
5. 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院):③

評価方法

1. 筆記試験
2. 技術確認

領　　域	専門分野(基礎看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	臨床看護総論Ⅰ	単 位 数 (時間数)	1単位　15時間
講　　師 (所属・職位等・実務経験)	渡邊　真弓（別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師33年)		

＜科目目標＞

健康の段階および健康障害の経過に応じた対象と家族の適応を促す看護を理解する。

＜内容＞

回	授業内容	授業方法
1・2	1. 健康の段階の考え方 2. 経過に基づく看護 1)急性期における看護 (1) 急性期の特徴 (2) 急性期看護の対象 ① 小児　② 成人　③ 老年　④ 母性 (3) 急性期治療の特徴 ① 急性期の経過　② 治療の特徴 ③ 治療にまつわる反応（患者に与える影響) ④ 安静療法、薬物療法、酸素療法、呼吸管理の影響 ⑤ 治療環境に対する反応 (4) 急性期の患者・家族のニーズと看護援助 ① 迅速な観察と適切な判断・対応による生命の維持 ② 心身の苦痛・不快の緩和による安楽の提供 ③ 危機的状況にある患者・家族への支援 ④ セルフケアへの支援・早期リハビリテーション (5) 危機理論、ストレス・コーピング理論	講義
3・4	2)回復期、リハビリテーション期における看護 (1) 回復期の特徴 (2) 回復期看護の対象 ① 小児　② 成人　③ 老年　④ 母性 (3) 回復期治療の特徴 ① 回復期の経過　② 治療の特徴 (4) 回復期の患者・家族のニーズと看護援助 ① 回復期の看護に用いられる概念・理論 (エンパワメント、生活の質、役割理論、家族理論、悲嘆のプロセス) ② 身体的・心理的・社会的ニーズ ③ 障がいの理解（ICFの概念) ④ 体力回復促進、二次的障害の予防、セルフケア行動の確立の促進、退院後の生活に向けたケア計画、患者・家族が弛緩や障害に適応するための援助 (5) リハビリテーションと看護 ①生活者としてのリハビリテーション ②パワーリハビリテーション ③リハビリテーションにおける看護の役割	講義 グループワーク

回	授業内容	授業方法
５・６	3)慢性期における看護 (1) 慢性期の特徴 (2) 慢性期看護の対象 ①小児　②成人　③老年　④母性 (3) 慢性期治療の特徴 ①慢性期への移行と治療の目標 ②患者に対する支援体制 (4) 慢性期の患者・家族のニーズと看護援助 ①身体的・心理的・社会的ニーズ ②教育的なかかわり、支援 ③セルフケア、健康障害の受容 (5) 慢性期の看護に用いられる概念・理論 ①病みの軌跡 ②ケアの概念・理論 オレムのセルフケア理論 ③社会的学習理論 セルフケアエフィカシー理論、自己効力理論 ④保健行動概念・理論 コンプライアンス、アドヒアランス、保健信念モデル ⑤ストレス・コーピング理論	講義 グループワーク
７・８	4)終末期における看護 (1) 終末期の特徴 (2) 終末期看護の対象 ①小児　②成人　③老年　④母性 (3) 終末期医療の特徴 (4) 終末期の患者・家族のニーズと看護援助 ①身体的・心理的・社会的・スピリチュアル的なニーズ ②症状マネジメントのための看護 ③全人的苦痛を緩和するための看護 ④日常生活の援助 (5) 死の受容過程 ①ケアリング (6) 脳死状態の対応 (7) 安楽死 (8) 尊厳死 (9) グリーフケア (10) 死亡時の看護（エンゼルケア） ①エンゼルケア　②エンゼルメイク　③家族への配慮	講義 グループワーク 演習

授業の進め方

経過別看護は、各期の看護における対象の身体的・心理的・社会的特徴や看護について学ぶ。各期の対象については具体的な事例を用いて教授する。また視聴覚教材を用いて各期の特徴的な看護についてイメージできるようにする。死亡時の看護についてはエンゼルケアの実際を演習を行い学習する。

テキスト

1. 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学　臨床看護総論　基礎看護学４(医学書院)
2. 臨床看護学叢書２　経過別看護(メヂカルフレンド社)
3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研)

評価方法

提示したレポート、筆記試験、講義・演習の参加状況により総合的に評価する。

領　　域	専門分野　（基礎看護学）	開講時期	2年前期
科 目 名 （単元名）	臨床看護総論Ⅱ	単 位 数 （時間数）	1単位　15時間
講　　師 （所属・職位等・実務経験）	① 野中智恵（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師19年） ② 高野由香里（別府医療センター・がん化学療法看護認定看護師・看護師18年） ③ 熊﨑明里（別府医療センター・副看護師長・看護師20年）		

＜科目目標＞

健康障害に基づく主要症状および主要な治療を受ける対象の看護を理解する。

＜内容＞

回	授業内容	授業方法	担当講師
1～6	1. 主要症状のある患者の看護 2. 消化吸収過程の障害と看護 1）嘔気・嘔吐 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 2）腹痛 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 3）下痢 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 3. 呼吸異常の症状と看護 1）呼吸困難 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 ①呼吸の観察　②酸素の安全な供給　③換気　薬剤 ④生活の援助 4. 循環障害の症状と看護 1）不整脈 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 ①循環障害の予防と早期発見　②循環の促進 ③苦痛の緩和　④基本的ニーズの充足　⑤生活への援助 5. 体温調整のための看護 1）発熱 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護	講義 演習（グループワーク）	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
1～6	6. 体液異常からくる症状と看護 1）浮腫 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 ①水分出納管理　②緩和（体位、薬剤、食事） ③日常生活援助 7. 痛みのある患者の看護 1）疼痛 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 8. 意識障害のある患者の看護 1）意識障害 (1) 定義・分類、原因・誘因、メカニズム (2) 症状の緩和 (3) 看護 9. 全体発表　まとめ	講義 演習（グループワーク）	①
7	10. 化学療法を受ける対象とその看護 1)化学療法を必要とする対象者 2)化学療法が患者に及ぼす影響 3)化学療法を受ける患者の看護 4)抗がん剤による医療従事者の被爆	講義	②
8	11. 放射線治療を受ける対象とその看護 1)放射線療法を必要とする対象者 2)放射線療法に伴う有害作用 3)放射線療法を受ける患者の看護	講義	③

授業の進め方

症状別看護は、症状のある患者の事例を通して学ぶ。ジグソー法によるＡＬを取り入れ、グループごとに１事例を担当し、他者にわかりやすく説明する。特に症状のメカニズムについては関連図をもとに説明する。

治療を受ける対象の看護は、具体的な事例を取り入れながら、看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴や看護の要点について学ぶ。

テキスト

1. 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学　臨床看護総論　基礎看護学４(医学書院)：①②③
2. 看護過程に沿った対症看護　第４版　病態生理と看護のポイント(学研)：①
3. 系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学(医学書院)：③

評価方法

提示したレポート、筆記試験、講義・演習の参加状況により総合的に評価する。

領　　域	専門分野　（基礎看護学）	開講時期	２年前期～後期
科 目 名 （単元名）	看護研究の基礎	単 位 数 （時間数）	１単位(30 時間)
講　　師 (所属･職位等･実務経験)	村上　由紀（別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・30 年）		

＜科目目標＞

看護における研究の意義を理解し、文献検索、文献クリティーク、調査研究あるいは実験研究を行い、研究のプロセスの理解と科学的思考を育成する。

＜内容＞

回	授業内容	授業方法
1	1.看護における研究の意義 1)研究とは　　2)看護研究の意義（定義、役割、特徴） 3)看護研究の変遷	講義
2	2.看護における研究疑問 1)研究疑問（リサーチクエスチョン）とは 2)研究テーマを明確にするプロセス	講義・演習
3	3.文献検索と文献検討 1)文献とは　　2)文献検索および文献検討の必要性 3)文献検索の方法　　4)一次文献と二次文献　　5)文献検索の実際	講義・演習
4	4. 看護研究のクリティーク 1)クリティークとは　　2)クリティークの意義・目的 3)クリティークの方法　　4)クリティークの実際	講義・演習
5	5. 研究デザイン 1)研究デザインとは　　2)量的研究と質的研究の特徴 3)ミックスメソッド	講義
6	6. 研究計画書の作成 1)研究計画書とは　　2)研究計画書の構成要素 3)研究計画書作成の実際	講義・演習
7	6. 研究計画書の作成 4) データ収集方法　　5) データ分析方法	講義
8	7. 看護研究における倫理 1)研究における倫理と順守するべき倫理原則 2)看護研究における倫理指針　　3)倫理的問題の対応	講義
9・10	8. 研究の実際 １)) 研究計画書に基づくデータ収集およびデータ分析	演習
11・12	8.研究の実際	演習
13・14	8.研究の実際：発表	演習
15	8.研究の実際：総評 9. 事例研究（ケーススタディ）の方法	講義

授業の進め方

看護における研究の意義や方法についてはテキストや文献をもとに説明を行う。文献検索は Web 版医学中央雑誌等を用いて行い、その方法を理解する。検索した文献についてクリティークを行い、批判的思考に基づく研究の質や信頼度を検討する。研究の実際では、グループで、調査研究、実験研究を行い、論文をまとめ、発表会を行う。11 回目、12 回目は担当教員による指導を行う。

テキスト

1.坂下　玲子ら著：系統看護学講座　別冊　看護研究　第 2 版, 2023

評価方法

1. 筆記試験
2. レポート（クリティーク課題,　研究計画書, 研究論文）によって評価する。